

この場合は通過回数も少なくはつきりしないが、降り始めは熊本地方は福岡より早く、筑豊、北九州、豊前および佐賀地方はおそい方が多くなっている。降り終りは各地方とも福岡よりおそ目だが、筑豊および北九州地方は福岡と同じかおそいが半々となっており、平均では1時間以内の差である。

(4) 低気圧が九州南岸を通る場合

降り始めは筑豊地方は福岡と同じかおそいことが半々で、北九州地方はおそくなっている。筑後地方は早いことが多く、豊前地方はだいたい半々となっている。降り終りは、熊本地方は福岡よりおそくその他の地方は早くなっている。福岡とは30分～1時間の差である。

(5) 低気圧が屋久島およびその以南を通る場合

降り始めは筑後地方が福岡より早いことが多く、豊前地方が早いとおそいかがだいたい半々となっている。筑豊、北九州地方は一般に福岡よりおそくなっている。時間差にして30分～1時間くらいである。降り終りは各地方とも平均して福岡よりおそいことが多くなっている。しかしこれからの差はだいたい1時間くらいである。

Ⅲ 継続時間

降雨の継続時間は、各降雨ごとにまちまちであるが平均では次のようになる。

(1) 低気圧が九州の北方を通る場合、福岡、筑後地方が一番長く、次が筑豊、北九州で豊前地方が一番長短かくなっている。福岡と豊前地方との差は4時間となっているが、その他との差は1時間である。

(2) 低気圧が九州中部を通る場合、福岡、熊本および豊前地方が一番長く、佐賀地方が短かくなっている。福岡と佐賀地方との差は3時間となっているが、その他との差は1時間である。

(3) 低気圧が九州南方を通る場合、豊前、熊本地方が一番長く、次に佐賀、筑豊地方で福岡、北九州地方が一番短かくなっている。福岡との差は豊前、熊本地方で4時間、その他の地方で1時間である。

以上を要約すれば雨の降り始め、終りについては、低気圧の移動速度、大きさおよび強さなどが原因してか目だった地域差を示していない。一方継続時間については、はつきり傾向が現われており、低気圧が九州地方を通る場合には南方を通る場合より比較的継続時間が長くなっている。このことから低気圧が北方を通ったときの方がおよそ8～10時間くらい悪天が長びくことになる。

む す び

風と雨の各地域の特性について簡単な調査を行なったが、風の調査は1年たらずの資料であり、また資料の関係から北九州は下関が、筑後地方は佐賀が代表できるものとしたが、観測所の八幡（気象通報所の久留米、飛行場の首根などの長期間の資料を用い季節別に調査すればもっとはつきりした地域の特性がでると思われる。また雨量分布や継続時間は、平均的にはある特性を示すことがわかったが、

雨の降り始め、降り終りについてはそれはなどはつきりした特性は得られなかった。高気圧のように割合広い範囲の現象は、東西南北わずか90kmのような狭い範囲の予報にはそれほど問題にはならないが、低気圧や前線などのように割合狭い区域で起こる現象については、今後レーダーをより有効に活用すればある程度地域別の予報も解決すると考える。

気象の英語 (31)

33. symposium と panel discussion

シンポジウムという言葉は、ごろがよい為か、あるいは何か新鮮味が感ぜられる為か、盛んに使われる。語源はギリシヤ語で、ギリシヤ時代には、ご馳走を食べた後で、満ち足りた気分でお酒を飲みながら、雑談や、哲学談義などをする会、を指したそうである。現在では、A.C.D.によると、① a meeting or conference for discussion of some subject. ② a collection of opinions expressed, or arti-

cles contributed, by several persons on a given subject or topic. とある。つまり、題目をきめての座談会、または、その結果を集めたもの、である。また、とくに題目や話し手などをあらかじめきめておいて行なう座談会のことを、panel discussion という。この他、座談に限らず、ある目的での社交的な集まり（とくに夜の）を soiree という。これはラテン語からフランス語になり、つぎに英語に入ったもので、ボン・ソワールからご推察の通り、soir は夜という意味である。（有住直介）